

1847年5月8日

善光寺地震

その1

文：松浦律子（地震予知総合研究振興会地震調査研究センター解析部）

善光寺地震は、今から百六十年前の一八四七年五月八日、旧暦では弘化四年三月二十四日の夜十時頃、御開帳で賑わっていた善光寺界隈を含む長野盆地の西側で発生しました。盆地と山地との境目にある活断層に発生した典型的な内陸大地震です。

善光寺地震PROFILE

活断層の大地震

マグニチュード >>> 7.4 (推定)

死者総数 >>> 8000 ~ 10000 人

全壊及び焼失家屋 >>> 約 20000 戸

山崩れ >>> 40000 力以上

時は、近世末期。庶民も「旅行」をする時代になっていましたから、阿弥陀さまの御開帳を拝みにきていた土地に不案内の各地からの旅行者も多数犠牲となりました。旅行者が被災したため、探しにやってくる戻ったその縁者によって、あるいは、辛

地震の犠牲者は、「土葬にされ、火葬にされ、水葬にされ三度弔われた。」と云われたように、被害の種類も多様でした。町のすぐ下に震源域があったため、強震動による家屋倒壊が発生し、その後お定まりの火災発生がありました（図二）。山間部の村々で

圧力で決壊し、千曲川などの下流の善光寺平一帯に大洪水の被害をもたらしました。地震のゆれによる直接被害だけでなく、二次災害の種類も規模も揃った陸の地震災害の標本が、よりによって観光シーズンピークに発生したのです。

諸国から参詣客が参集し、最も混雑していた時期に災害が発生

くも一命を取り留めた生存者の帰郷によって、この地震は現在のような報道手段がない時代にあっても、全国にその災害の有様が伝えられていったのです。

善光寺地震が特徴的なのは、その知名度だけではありません。善光寺

は大小四方箇所以上発生した山崩れによって、家々が埋まりました。岩倉山の崩壊部分は、雪解け水で水量豊富な時期だった犀川の流れを塞ぎ止めました。十九日後には、たっぷり水を溜め込んだこの震生湖（地震で出来た湖）は、今度はその水の

この地震を発生させたのは、長野盆地の西縁を山地との境にそって延びる長野盆地西縁断層帯という活断層です。この活断層は、概略千年に一回程度善光寺地震のような地震を発生させてきました。全国で百余ある主要活断層帯のうちでも最も活動

